

税金の種類と消費税を考える学習活動を通して
納税の大切さに気づく授業

石巻市立河南西中学校
教諭 保坂 敦史

1 はじめに

税金を納めることは、国民の三大義務「勤労・納税・教育」のうちの一つである。税金は政府が行政サービスを行う上で必要なものであるが、どのようなところで、どのように使われているのかを具体的に認識している生徒は少ない。「消費税」については、生徒自身も負担をしているにもかかわらず、徴税の目的を知らない生徒も少なくない。

税金については第3学年の「公民的分野」で学習する。今回は、税金にはどのような種類があるのかを理解させ、更に税金を納めることが大切であることを意識させたいと考えて授業を行った。

2 生徒の実態

本学級は第3学年男子20名、女子18名、計38名で構成されている。社会科においては、意欲的に取り組む生徒が多い。

租税教育を行うにあたって、税金に関するアンケート調査を実施した。以下はその結果である。

回答生徒 37名／38名

問1 税金についてどのようなイメージをもっていますか。
公務員の給料（13人）、お年寄りの年金（8人）、8%に上がった（3人）、払うのがたいへん（2人）、国民が負担している（11人）
問2 税金の種類について知っているものはありますか。（複数回答）
消費税（37人）、自動車税（5人）、関税（3人）、たばこ税（8人）、所得税（4人）、住民税（2人）、所得稅（1人）
問3 税金がどのように使われているか知っていることはありますか。
生活を便利にするため（9人）、国民の生活のため（5人）、道路や橋をつくる（4人）、お年寄りの年金（4人）、建物をつくる（3人）、よくわからない（6人）、無駄なことにも使われている（6人）
問4 あなたは消費税を納めることに積極的ですか、消極的ですか。
積極的に納めたいと思っている（25人）、積極的に納めたいとは思っていない（12人）

3 指導にあたって

現在公民的分野の学習を行っている。生徒に関心を持たせるために、新聞やニュースで取り上げられている話題を授業で紹介したり、生徒自身に新聞を読んだり、ニュースを見たりするように声かけをしている。

事前アンケートの結果から、今回の税金に関する学習では、税金についてのイメージが様々であること、税金の種類にはある程度の理解があるものの、どのように生かされているのかについては理解が乏しいことがわかった。また、税金を納めることについての意識の差もあることから、税金の必要性についての知識が身に付いていないことがわかった。

本学習では、「税金が無かったら、世の中はどうなるだろう。」というテーマを設定し、話し合いによって生徒たちの考えを引き出すことで、税金への関心を高めたい。そして、生徒たちに最も馴染みがある消費税を扱い、消費税について考えることを通して、税金を納めることの大切さを理解させたい。

4 授業計画

時間	学習内容	主な学習活動
1 (本時)	「税金」について考えよう。	<ul style="list-style-type: none">・「税金が無かったら、世の中はどうなるだろう。」というテーマで、グループで話し合う。・税金の種類を知る。・身近な消費税から、徴税の目的について考える。
2	「税金」はどのように私たちの生活と結びついているかを考えよう。	<ul style="list-style-type: none">・税金の使い道について考える。・私たちの身近にあるものと税金との関係を理解する。・なぜ税金には増やすものや減らすもので違いがあるのかを考える。

5 指導過程 (1/2 本時)

学習活動	指導上の留意点
導入 税金について知る。 本時のねらい：税金について考えよう。	<ul style="list-style-type: none">・税金について、大まかな説明をする。
展開1 税金のあり方について考える。 「税金が無かったら、世の中はどうなるだろうか。」について考える。	<ul style="list-style-type: none">・グループを組んで、話し合い活動を行う。

(予想される答え)

公務員の給料が下がる，生活に大きな支障が出る。

2 税金の種類について学習する。

・税金の種類についての基本的な事項を学習する。

① 聞いたことのある税金を確認する。

酒税・たばこ税・自動車税・関税など

② 国税と地方税（納税先の違い）

③ 直接税と間接税（担税者と納税者の違い）

3 なぜ，消費税を徴税しているのか，話し合ってみよう。

(予想される答え)

年金，治療費，給料

終結 4 授業を振り返り，税金についての感想を記入する。

・机間指導を行い，助言をする。

・国税庁「宮城県 私たちの暮らしと税」を資料として用いて概要を理解する。

・生徒にとって身近な消費税を取り上げて考える。



6 事後アンケートの結果から（一部抜粋）

回答生徒 37名／38名

問1 授業を終えて税金についての考えを書こう。
・税金を納めることをあまり考えたことが無かったが、税金が必要だとわかった。
・税金は国が好きのように使うイメージがあったが、私たちの生活に結び付いていることがわかった。
・税金が無いと生活が不便になるから、税金は必要だと思った。
・税金の使い道について改めて知りました。友達の見解から、税金の色々な使われ方がわかることができました。
・税金は必要なお金だとわかったけれど、人々の負担も考えないといけないとも思った。
・税金は公務員の給料という考えしかもってなかったけれど、友達と話し合っ、様々なことに使われていることがわかった。
・税金を納めないと、自分たちの生活が大変になるので、税金は必要だと思った。
問2 あなたは消費税を納めることに積極的ですか、消極的ですか。
積極的に納めたいと思っている（37人） 積極的に納めたいとは思っていない（0人）

7 ○成果と●課題

- 税金について生徒に意見交換をさせながら授業を展開したことで、税金の疑問について解決することができた。
- 身近な消費税を扱ったことで、活発な話し合いを行うことができた。また、税金を納める重要性を理解することができた。
- 税金が「生活に役立っている」、「大切なものである」という意識をもたせることができた。
- 今回の授業では、グループでの話し合いをメインに行ったが、今後はICT教材などを用いて、租税教育を継続的に行っていきたい。